



市長とランチミーティング ③〇

石垣島の窯業発展の為、やきものの祭りの継続を！

第30回「市長とランチミーティング」は12月26日(水)に

「石垣島やきもの祭り実行委員会」の皆さんと行われました。

中山市長 年末のお忙しい中、ランチミーティングに参加していただきありがとうございます。

みなさんには日ごろから焼き物を通して石垣の様々な文化の発信にもご協力いただき感謝しています。また焼き物祭りも年々盛大に発展している事を大変嬉しく思っています。また新空港も開港しますので、石垣島の焼き物も全国にPRしたいと考えていますので今日は様々な意見を聞かせて頂ければと思います。

会員 この度は三回目の焼き物祭りへのご支援ありがとうございます。市の商工振興課のお蔭で成功する事ができました。また、市が粘土を分けて頂き石垣の焼き物の未来に発展性が出てきました。我々は鉋業権を持っていないので、勝手に粘土を掘ってくることもできなくて、石垣の粘土を使つて焼き物を製作したくても出来なかったところを石垣市が粘土を開放して頂いたことで先が開けたと思っています。また、焼き物祭りを市が様々な面で支援して頂いたことで毎年イベントが

成功し、年々盛大になってきている事には感謝しています。石垣島マラソンの完走メダルもオーダーして頂き、私たちのノウハウの蓄積にも非常に役立っています。



会員 この焼き物祭りも今回で三回目ですが、年々来場者も増えてきて、市内でも認知度が高くなってきました。焼き物祭りで作品をみた方が工房に遊びに来てくれたりして、焼き物に興味を示してくれる人が増えている事を実感しています。今後ぜひ継続して焼き物祭りを開催し

て頂きたいです。私たちは日々、焼き物の作品をつくる事しかやっていないので、イベントを開催するノウハウもない中で、市の職員の方々が会場設営から広報活動まで手伝って頂き、それがとても有難かったです。今後もこのような協力関係を続けていきたいです。

会員 これだけ石垣市に協力頂いているので、イベントに参加している我々業者側もテンションをあげて今後取り組んでいかないと祭り自体も盛り上がっていかないので、何のためにこの焼き物祭りを開催しているのか考えていかないといけないと思います。個人の利益だけを考えずに、島の窯業の発展の為にみんなで協力して焼き物祭りを継続していかないとけないと思います。

大高 商工振興課長 第一回目の焼き物祭りから一緒に関わっております。今後も出来る限り協力していきたいと考えています。

会員 第一回の焼き物祭りが行

われる以前から、市の働き掛けで石垣島に眠っている粘土をみんなに供給しようとバスツアーを組んで、粘土が眠っている場所を回ったりして、さらにはお金をかけて粘土を掘って、我々に供給してくれたことが今石垣の焼き物が発展したことに大きく影響しています。やはり、粘土がないと焼き物は作れないので、我々もできれば本土から取り寄せた粘土ではなくて石垣島で採れた粘土で焼き物を作りたいし、それに意味があると思います。島の原料で良い焼き物を作つて窯業を発展させることが石垣の観光地としての新しい魅力の創出につながると思います。





中山市長 今現在、石垣島で採れる粘土の種類はどれくらいありますか？

会員 今は一種類だけです。

採れるポイントが沢山あるのですが、安定して粘土を採取できるのが一か所だけです。様々な理由で他のポイントは粘土採取が難しいようです。

会員 粘土は調味料と同じで、一種類しかなければ一種類の味しか出せないし、沢山あれば色々なバリエーションの味が出せるということで、色々な種類の粘土があれば今よりも良い焼き物をつくる事ができます。島にはいろんな所にある粘土が眠っているの、それらをもっと使えるようになれば、もつと良い焼き物ができるという訳で、みんな島の良い土を求めているんです。

中山市長 現在、石垣島の粘土の供給方法はどのようになっていますか？

商工振興課職員 現在、新川の富崎で採れる粘土を市の方で定期的に採取しまして、ストックヤードに保管しているものを業者から連絡があれば市の規則で定められた金額で販売しています。現在、ストックしている土が富崎の粘土一種類しかないで以前からもつと粘土の種類を増やして欲しいという要望は聞いています。県が行っているボーリング調査や成分分析では、おそらくそこに粘土があるだろうという調査結果は出ていますが、そこを掘って確実に安定した量の粘土が採取できるかという調査まではできていない現状です。

会員 川平陶石という白っぽい粘土があり、それを使いたいというニーズが多いです。現在様々な理由で川平陶石を入手することが難しいようです。富崎の粘土も今後どこまで採取が可能かわからないのでそこは不安材料の一つですね。



会員 日本全国をみても粘土の資源はとも少なく、みんなインドやオーストラリアなどから輸入したものを混ぜて作品を作っている中で、石垣にはまだ資源が眠っていると言われていますし、川平陶石は非常に貴重な資源なのでこれは絶対に石垣市の宝になる資源だと思っています。粘土を採掘するに当たっては色々な障害があると思いますが、ぜひ長い目で調査をして頂きたいと思っています。

中山市長 今後、焼き物を通してこんな事をしたい、やってみたいという事はありますか？

会員 沖縄本島にあるような共同の登り窯があるといいなと思います。観光スポットにもなるし、そこでイベントも開催できると思います。また、これまでマラソン大会のメダルを焼き物で作ったりしていますが、給食の食器を石垣の焼き物で作る事ができれば子供たちが石垣島の焼き物に触れる機会ができて良い事だと思います。

会員 これまでバラバラに活動をしていた業者が、焼き物祭りというイベントを機に一緒になって同じ夢を見始めていて、石垣島の粘土を使って作品を作っている中で行政の方からも石垣島の窯業を後押しして頂きたいと思っています。

会員 この仕事をしていてビックリしたのが、意外に焼き物を作ったことがない島の人が多いこと。

小学校の子供たちに焼き物体験学習をさせると先生も初めてだったとして、もつと島の人が焼き物に興味をもつてくれて、焼き物を好きになってくれて、島全体を盛り上げていかないと石垣島の窯業の発展にはつながらないと思うので、これからも窯業を広める為に努力していきたいと思っています。

中山市長 焼き物に情熱や夢を持ったみなさんの気持ちが伝わってきました。石垣市としてもぜひ、今後いろんな特産品を作っていく中で、お酒や食べ物以外に陶芸も一つの可能性として考えていくのではないかと考えています。これから意見交換しながら石垣島の焼き物を一緒になって発展させていきたいと思っています。ありがとうございます。

